(4) 吝嗇者の金槌の貸借

昔、吝嗇で広く世に知られた或るご主人が、或る日の事、女中に対して「おーい、これこれ、向こうの家へ行ってちょっと金槌を借りて来てくれやぁー」と言ったので、女中っ子は早速借りに行ったところ、向こうの家の親方は「何を打つために使うのだべー？」と聞くので、帰ってこれをご主人に告げたら「ちぃっ〝ここに出ている釘の頭を打つためだと言え〟」とさも不快そうな顔をして言うので、驚いた女中っ子は再び向こうの家へ飛んで行き、「釘頭を打つのだんしど」と告げたら、親方はきつい顔をして「木を打つのなら良いが、金気の物では金槌が減るからお断りだなぁー」とのこと。これを帰ってご主人に伝えたら、ご主人は急に不機嫌極まる顔をして「何〝ふん〟あの吝嗇な野郎が。では仕方がねぇー、俺の家の金槌を使うべぇー、持って来いやぁー」と言ったけどぉ……。